

よくある相談事例

対 象	竹林・たけのこ
タイトル	たけのこ生産のための親竹として残すべきたけのこの見分け方
内 容	<p>・早掘りたけのこの生産を目的に竹林を管理していますが、最近、竹に勢いが無くなり、一部枯れてきています。何か病気でしょうか？</p>
助言等	<p>【原因】</p> <p>・早掘りたけのこを生産目的とする親竹管理については、直径の小さな竹を多く残して仕立てる生産者がおられます。</p> <p>・この方法は古い地下茎からのたけのこや止まりタケノコばかりを残すことがないよう十分に注意する必要があります。</p> <p>【親竹として残すべきたけのこの特徴】</p> <p>・親竹として残すべきたけのこの特徴については次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 肩毛が山吹色(黄色)のたけのこ(特に重要！) ② 先端が直立せず、少し湾曲して元気よく尖ったたけのこ ③ 3月下旬から4月上旬(たけのこ発生のパーク)に発生したたけのこ <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>親竹として良いたけのこ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>親竹として良くないたけのこ</p> </div> </div> <p>【親竹として残すべきたけのこの本数など】</p> <p>・1年生から5年生の親竹を 10aあたり 150 本～300 本程度残します。</p> <p>・親竹となる新竹(1年生の竹)は毎年伐竹本数に見合う本数を残すことになりませんが、1割程度多めに残すなどの工夫が必要です。</p> <p>(例)10aあたり 300 本仕立てとする場合には、66 本程度を残す。</p> <p>・その他にイノシシやシカ等の獣害が心配される地域においては、電気柵やネット等の獣害対策が重要となります。</p>